

目指す児童生徒像「明日をひらき のびゆく 輝多っ子」



学校教育目標 「自立・創造・貢献」

高萩北中だより

令和6年7月19日 第5号



考えよう
家族みんなで
スマホのルール

私からは子どもたちの情報モラル育成に取り組みます

高萩北中プロジェクト



夏休みが始まります

校長 島津 芳久

新しいクラス、新しい仲間と出会い、少し不安が入り混じっていた入学式・始業式から4か月が過ぎました。旅行的行事や学級づくりを通して、最近では頼もしさすら感じるようになりました。

さて、明日から37日間の夏休みになります。そして、3年ぶりとなるパリオリンピック・パラリンピックが開催され

ます。コロナ禍により無観客で行われた東京大会から、通常の形に戻る大会となり、鍛錬を積み重なってきたアスリートにとっては正に檜舞台となるでしょう。しかし、世界では戦争や貧困、自然災害などで、オリンピック・パラリンピックどころではないという人々がたくさんおられるのが現実です。そんな時だからこそ、「近代オリンピックの父」と呼ばれるクーベルタン男爵が唱えたオリンピック精神「スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でより良い世界の実現に貢献すること」が重要なのではないのでしょうか。

「参加することに意義がある」この言葉は、英米両チームのあからさまな対立により険悪なムードだったロンドン大会（1908年）中の日曜日、礼拝のためにセントポール大寺院に集まった選手を前に、主教が述べた戒めの言葉だったそうです。クーベルタン男爵は、この言葉に感動し、英政府主催の晩さん会でこの言葉を引用し「人生にとって大切なことは成功することではなく努力すること」という趣旨のスピーチを行ったそうです。

8月10日、日高市出身の小山直城選手が男子マラソンに出場します。つつい、メダルは、記録は、と話題にしていまいますが、出場するすべての選手のこれまでの努力を称賛し、無事42.195kmを走りきることを応援したいと思います。また、子供を育てていくうえで、アスリートの祭典のなかにメダルや記録以外に何を見せたいのか、何を考えさせたいのか、こう考えることは我々大人の責任とも言えます。命の輝き、友情、連帯感、フェアプレーの精神、生きる意味、挑戦することの大切さ…。

セーナ川での開会式が楽しみです。

◎「輝多っ子サポーターズ」の皆様が中心となり、生徒と花植え活動を行っていただきました。

校舎前のマリーゴールドが素敵です。



○第1学年校外学習（川越市内巡り）

7月5日（金）、事前学習により作成した班別研修計画に則り、校外学習を行いました。猛暑の中、小学生の時とは違った視点で見学を行うことができたようです。



○PTA主催資源回収にご協力ください

9月1日（日）資源回収を行います。

日曜日の午前中となりますが、ご協力お願いします。また、高萩北中では、市テニス協会の大会も行っていますので、西門側（体育館側）からの出入りに、ご協力ください。



○夏季休業中の主な行事予定

【7月】

20・21日 陸上競技県大会
 23日（火）三者相談開始
 26日（金）2年生 留学体験1DAY
 ツアー開始
 29日（月）男子卓球部県大会

【8月】

11日（日）海の日・12日（月）振替休日
 13日～16日 学校閉庁期間
 18日（日）BJの日
 20日（火）高萩北小・中学校保健委員会
 26日（月）始業式

※7月号の県大会出場者の紹介において、室越さんの出場種目を1500mと記載してしまいましたが、3000mの間違いでした。お詫びして訂正いたします。